

東京都新宿区北新宿1-8-16
 東京土建一般労働組合
 電話03 (5332) 3971 (代表)
 FAX03 (5332) 3972
 発行人・編集人
 吉川 豊

印刷部数10万7300部
 (購読料は組合費のなかに含まれています)
 (年間購読料 千八百円)
 定価 五十円



東京土建のホームページ <http://www.tokyo-doken.or.jp/>

仲間の作品コンクール結果発表

力作ぞろいの第39回。活動再開とともに撮られた応募写真を「被写体を作品化する意識が高く、創作意欲がうかがえる」と選者も評価、文芸の部も必見です。

(関連記事4・5・6面)

国産材利活用、促進へ
東京都と都連が協定結ぶ



東京都と全建総連東京都連合会による
建築物木材利用促進協定 締結式

東京都農林水産部の山田部長 (中央左) と菅原都連委員長 (同右)

3月10日、都庁第一庁舎内で全建総連東京都連(都連)は東京都と建築物木材利用促進協定の締結式を行いました。都連からは菅原良和委員長、栗橋宏任事対策部長(東京土建専従常任中執)をはじめ、東京からは山田則人産業労働局農林水産部長他3人が出席しました。建設労働組合が同内容の協定を都道府県と結ぶのは全国で初めてのことです。

山田部長は「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等木材の利用の促進に関する法律」が施行され、公共側だけでなく民間事業者にも

東京土建 選挙にいこう!
 2023年4月9日、4月23日
 統一地方選挙
 8面にも関連記事

木材利用を推進できる法体系になった。これに基づき、本日の協定の締結に至った。今後多摩産材を始めとする国産材の利用促進で協力してやっていきたい、また菅原委員長は「ウッドショックなどで木材入手の困難が続いた。この協定で国産材を安心して使えるようになった」と胸を張って



金平さん(「TBS報道特集」特任キャスター)

中村隆幸統一本部長(本部長)のあいさつ後、さつきジャーナリストの金平茂紀さん(TBS報道特集)特任キャスターが「『分岐点』以降」と題する講演を行いました。

「ウクライナ戦争と7・8事件(安倍元首相銃撃・殺害)」は後世で歴史の分岐点とされる重大な出来事。この2つの惨事に便乗して、火事場泥棒のように軍拡、原発推進への転換、物価高騰への無為無策での弱者、地方の切り捨て、またマイナパーカード、インボイスの強制などの悪政が進められている。一方野党は大政翼賛化がすすみ、大手メディアは劣化し、SNSは若者のフラストレーションのはけ口になっているという危機的状況だ。

参加者からは「ブーチンはウクライナのネオナチによる大虐殺を口実にしているが、そのようなことはあったのか」「ベトナム戦争の時はアメ

リカ国内の反戦運動があったが、ロシアでの反戦の声を聞くことができる」と、それぞれあいさつで話しました。

協定概要の紹介の後、「とうきょうの木」と焼印された額に協定書を納め、記念撮影を行いました。



がんばる決意を固め合って。(けんせつプラザ東京会場)

要求実現アクション第一弾で「金平さん講演」
 悪政強行を惨事に便乗

身近から政治変えるを諦めず

2月27日、建設プラザ東京(WEB併用)で東京土建・要求実現アクション統一本部はアクション第一弾、「情勢を学び要求運動につなげる学習会」を開催。東京土建からは本部・25支部から224人、埼玉土建など他団体から12人、総計236人が参加し、4月に予定される統一地方選に向けてのたたかいをスタートさせました。

「ロシアによるウクライナ侵略戦争は一年を越した。ウクライナやロシアの現地取材して、この戦争は長期、泥沼化するのではないかと感じている。日本の現状を見ると、私たちは『少数派』だが、声を上げ続けること、まともなメディアを応援すること、若い世代と連帯して運動すること、身近なところから政治を変えることが大切だ」などと金平さんは話しました。

地統一地方選への闘いを提起

ディアは取り上げられないのか」といった質問が出され、金平さんからは「ものすごい弾圧があるが、ソ連の民主化の際、人民が立ち上がったのを見てきた。そうなることを信じていようと返答がありました。」

■電力会社と国家の傲岸(ごうがん)に立ち向かって40年 力及ばず 原発は本性を剥き出し、ふるさとの過去・現在・未来を奪った 人々に伝えたい 感性を研ぎ澄まし 知恵をふりしほり 力を結び合わせて 不条理に立ち向かう 勇気を! 科学と命への限りない愛の力で!

■昨年末に、福島県楢葉町の宝鏡寺の住職、早川篤雄さんが亡くなった。紹介した詩は、宝鏡寺にある「原発悔恨・伝言の碑」に書かれたものだ。現在や未来はおろか、過去までを奪われたとの叫びに、原発事故の過酷さを感じる。

■早川さんは、1970年代から、ふるさとや住民を守るために原発の安全神話に警鐘を鳴らし、国家の欺瞞を追及し続けた。時に、げんぱつ和尚と揶揄されながら。そして12年前の3月に、最も心配していた最悪の事態が起こるべくして起った。

■碑に書かれた内容はすべて、早川さんが実践してきたことだ。だが力及ばなかった。その無念さほど言葉で表せないが、それでもなお、不条理に立ち向かうために「感性を、知恵を、力をと石に刻んだ。後世への伝言として。その原動力は怒りではない。やはり、命への限らない愛だったのだと思う。時折「はは」と短く笑う、おだやかな早川さんの笑顔を思い出す。

